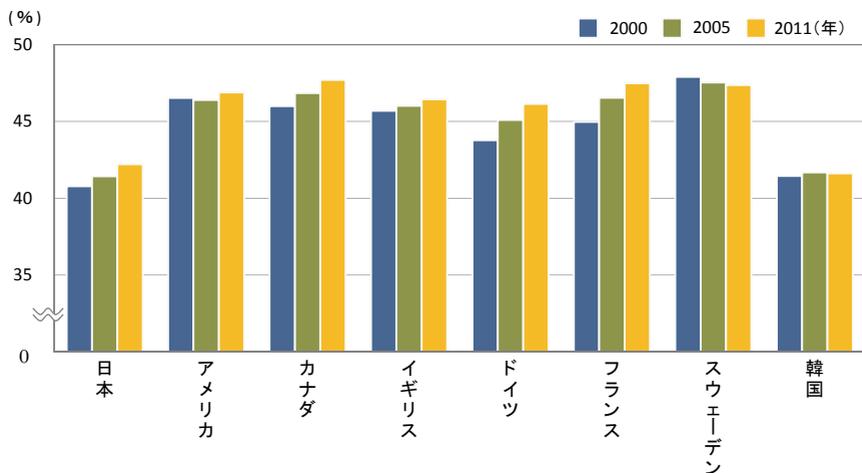


3-3 就業者に占める女性の割合



▶グラフの具体的な数値は下の(参考)欄、資料出所は、「第3-4表 性別・職業別就業者数」(p.103)を参照。
(注)カナダの2011年は2010年の値。

就業者に占める女性の割合は、全体としてみれば2000年から2011年にかけて上昇傾向にある。ただし、スウェーデンは2000年時点で既に女性就業者の割合が高水準で、以降ほぼ横ばいの推移となっている。

上のグラフをみると、日本と韓国は欧米先進国に比べて就業者に占める女性の割合が低いのがわかる。「2-5 年齢階級別女性労働力率(p.53)」のように、日本においては、出産・育児等のために特定の階層で女性の労働力率が低下するというM字カーブが現在でもみられることが、ひとつの要因として挙げられる。

(参考) 就業者に占める女性の割合(%)

	2000	2005	2011 (年)
日本	40.8	41.4	42.2
アメリカ	46.5	46.4	46.9
カナダ	46.0	46.8	47.7
イギリス	45.7	46.0	46.4
ドイツ	43.8	45.1	46.1
フランス	45.0	46.5	47.5
スウェーデン	47.9	47.5	47.4
韓国	41.4	41.7	41.6